

令和6年度 iD 課題研究 I β オリエンテーション

1. iD 課題研究 I β での目標

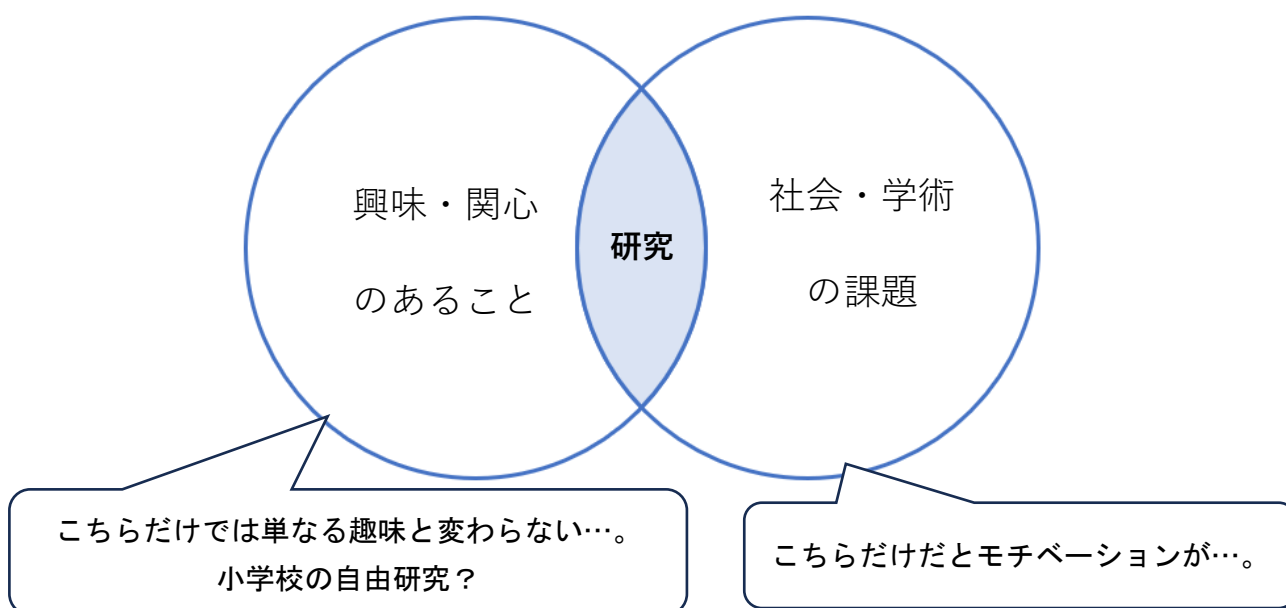
トランスサイエンスの解決に社会科学的（文系的）アプローチ※で挑む課題研究を行い、エージェンシーや科学的思考力、問題発見・解決能力などの諸能力の向上を目指す。

※法学、政治学、社会学、文化学的な視点

2. β の具体的ステップ

- ・オリエンテーション・研究テーマ模索（本時）
- ・プレゼンテーション準備・プレゼン大会
自分で選んだ仮テーマについて紹介するプレゼンテーションを個人で行う。
- ・グループ分け
それぞれの仮テーマや興味範囲にしたがって、4～5人のゼミを作成する。
- ・テーマ検討・研究計画書の作成
ゼミに分かれて意見を交換しながら、研究テーマ及び調査方法の検討を行う。
- ・研究調査
調査を行うと同時に中間報告（11月）に向けてのまとめも行う。
- ・論文作成
ポスター作成のための原稿としての論文作成。細かい体裁は、3年生の英語発表後に丁寧に整えていく予定なので、まずは内容を深める。
- ・ポスター作成、追加調査

3. 取り組む課題を見いだす（ α β 共通）



4. 社会・学術の課題にはどのようなものがあるか（ β 視点で）

- ①2015年の「国連持続可能な開発サミット」において国際連合が「持続可能な開発目標SDGs」として掲げた国際目標を参考に見よう☞

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/>

- ②「夢ナビ」のサイトで気になるワードと大学の研究を結びつける

<https://yumenavi.info/>



5. キーワードを記録しよう（ α β 共通）

興味・関心のある言葉	将来、進みたい進路に関連する言葉

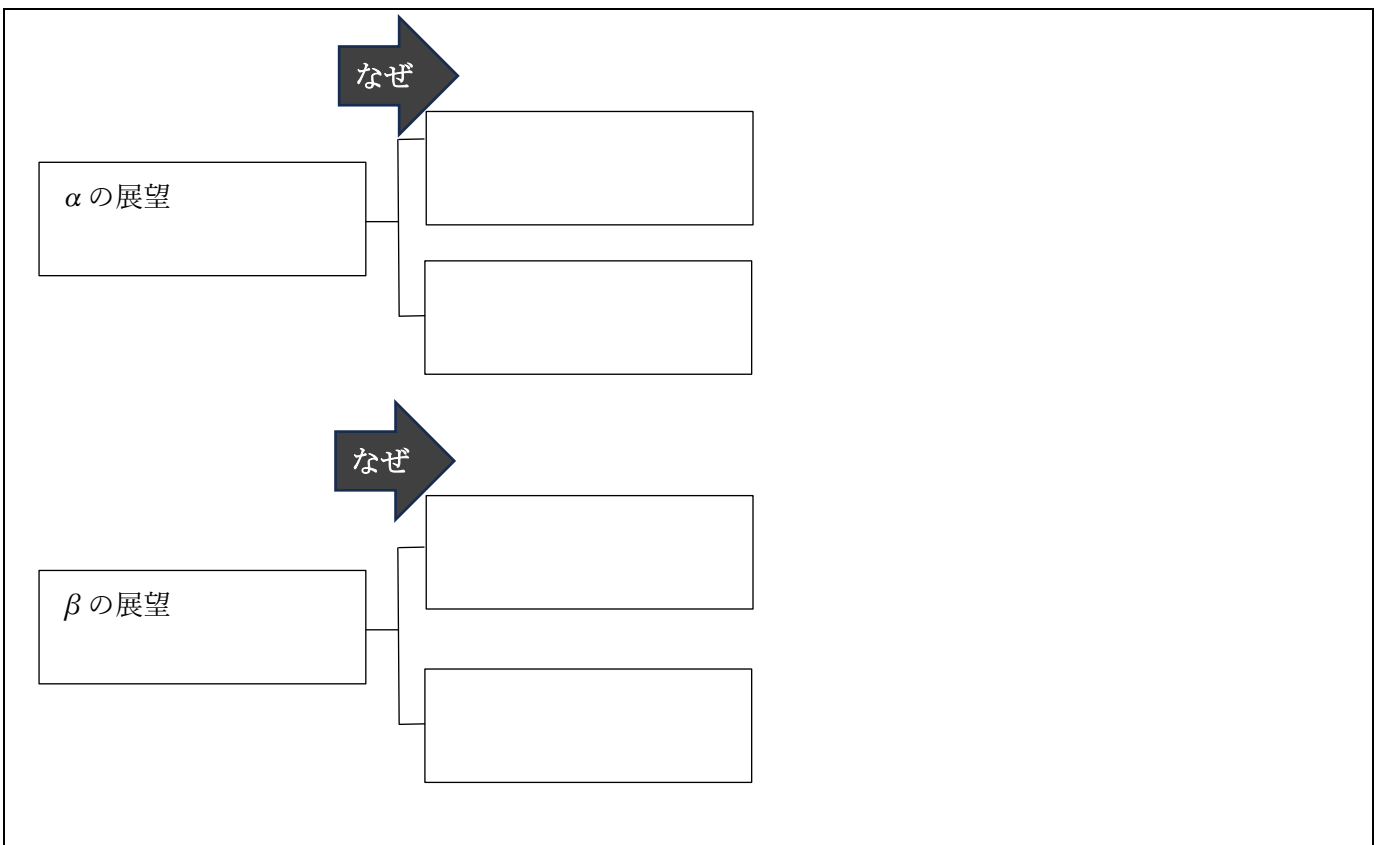
6. 仮の研究テーマ設定（ α β 共通）

研究テーマ（仮）	
自然科学的アプローチ（ α ）の展望	社会的科学的アプローチ（ β ）の展望

※あくまで（仮）です。プレゼン大会後に変更できます。

7. ロジックツリーをつくろう

あなたの研究テーマはなぜ課題としてとらえられるのか？



iD 課題研究 I β プレゼン大会 記録票

発表者：2年1組（ ）番（ ）へ

良かったところ	
改善できそうなところ	

iD 課題研究 I β プレゼン大会 記録票

発表者：2年1組（ ）番（ ）へ

良かったところ	
改善できそうなところ	

iD 課題研究 I β プレゼン大会 記録票

発表者：2年1組（ ）番（ ）へ

良かったところ	
改善できそうなところ	

令和6年度 第2学年 iD 課題研究 I β

リサーチクエスチョンを立てよう

()組 ()番 氏名 ()、()組 ()番 氏名 ()
()組 ()番 氏名 ()、()組 ()番 氏名 ()
()組 ()番 氏名 ()、()組 ()番 氏名 ()

① 研究テーマ (仮)

--

② 社会科学的アプローチ

--

③ アプローチに対して「問い」を立てよう 『課題研究メソッド』 p.44

アプローチが決まっただけでは、まだ「何を明らかにするのか」が曖昧であることが多い。多くの問いを立てて答えを探し、また問いを立て答えを探す…というプロセスを重ね、この課題研究全体で明らかにしたい問い、すなわち「リサーチクエスチョン」を導く。

① 言葉の意味や定義を問う「問い」
② 原因 (なぜ) を問う「問い」
③ 信ぴょう性を問う「問い」
④ 比較を行う「問い」
⑤ 先行研究・先行事例を問う「問い」
⑥ 影響を問う「問い」
⑦ 方法や関連性を問う「問い」

④ 「問い」の答えがすぐに見つかるか、確認する【タブレット活用】

上表に答えを記入していく。新たな問いが出てくれば追加で記入する。

⑤ すぐに答えが見つからない「問い」 『課題研究メソッド』 p.51

これが本当にリサーチクエスチョンになりうるのか、以下で検証していく。

実際に研究を進めていくとして、『課題研究メソッド』 p.55 を参考に

A. どの地域を対象とするのか？

「地方」「発展途上国」などではなく、リサーチクエスチョンでは対象を明確にしなくてはならない。かといって検証不可能な国・地域を対象とするのも不適切。

B. 研究の対象者はどのような人か？

C. いつの時代に焦点をあてるのか？

D. どのような状況を想定しているか？

「不平等」「差別」といった曖昧な言葉ではなく、それらが具体的にどのような状況を指しているのか明確にする。

E. どの学術分野に重点を置いて研究を行うのか？

同じ研究テーマであっても、経済学から切り込むのか、政治学から切り込むのかでまったく違った研究となる。あれもこれも、は時間的に不可能なので、重点を置く分野を明確にする。

⑥ 導き出したリサーチクエスチョン

令和6年度 第2学年 iD 課題研究 I β

研究課題 決定シート

() 組 () 番 氏名 ()、() 組 () 番 氏名 ()
() 組 () 番 氏名 ()、() 組 () 番 氏名 ()
() 組 () 番 氏名 ()、() 組 () 番 氏名 ()

① 研究テーマ (確定)

--

② 社会科学的アプローチ

--

③ 研究意義 (問題は何か、その解決がどう役立つか)

問題点
どう役立つか

③ 仮説と、それを明らかにするための調査方法

仮説
調査方法 『課題研究メソッド』 p.73

○ 提出日 7月9日 (水) (各講座の担当の先生まで)

令和6年度 第2学年 iD 課題研究Ⅰβ 今後のながれ

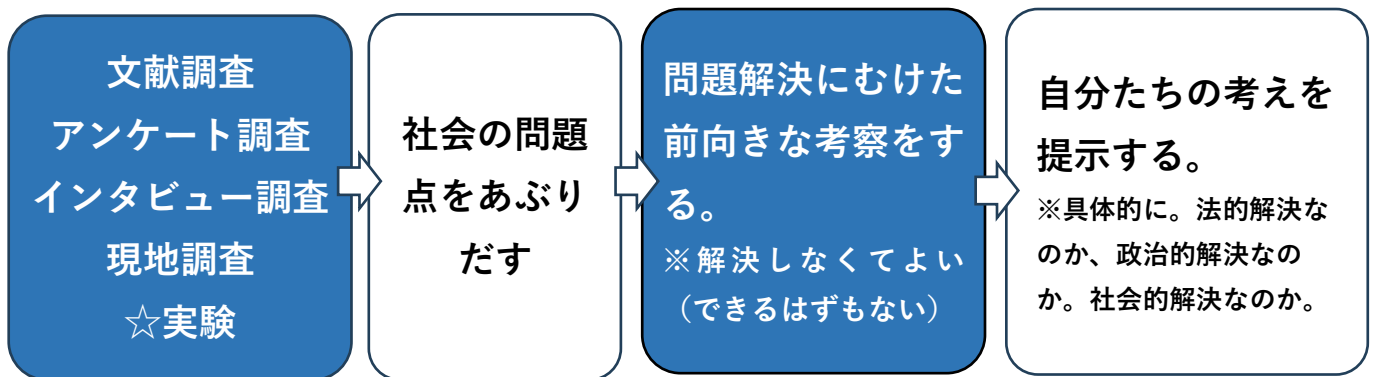
① 計画表

1	9月3日	
	9月10日	代休
2	9月17日	
3	9月24日	
4	10月1日	
5	10月8日	
	10月15日	中間考査
6	10月22日	
7	10月29日	
8	11月5日	
9	11月12日	
10	11月19日	
	中間発表（3年生探求系と） ※期末考査内	
	11月26日	期末考査
11	12月3日	
12	12月10日	
13	12月17日	
14		
	1月7日	課題テスト
15	1月14日	
16	1月21日	
17	1月28日	
18	2月4日	論文提出
	2月11日	建国記念の日
19	2月18日	
	2月25日	学年末考査
20	3月4日	
	3月11日	4限授業
21	3月18日	ポスター提出

*ポスター作成が3年生にずれこむことは想定内であるが、論文は年度内に完成させる。

*論文の作成の仕方については、後日、別途指示がある。

②自然科学的アプローチ研究のイメージ



③外部機関との連携について

研究を深める目的で外部機関と連携したい場合、担当の先生に相談すること。自分たちで連絡をとるより、学校の先生が仲介した方がうまくいく可能性がちょっとだけ高いかも。

今年度すでに仲介した機関等…刈谷市内の中学校、刈谷の子ども食堂、刈谷・知立の就業継続支援事業所
一般企業（寒天メーカー）、外国人留学生

④アンケートの配布について

「アンケートの作り方」の Word ファイルが、探求系 teams のファイルに入っているので参考にすること。
（“…”→開く→アプリで開く、の手順で開く）

アンケートを作成したら担当の先生に確認してもらうこと。自分たちの目的に応じたアンケート内容になっているだろうか。

例) 10代の投票率の低さの原因を調査したい → 刈高生に「(仮に投票権があったとして) 投票に行かない理由は何ですか」と聞く

* 「時間がない」「政治に興味がない」あたりが上位にくることが容易に想像できるが、わざわざアンケートをとる意味があるだろうか。同様の調査がすでにネット上にあるのでは？（教科書等でもよく見る）

* 「時間がない」や「政治に興味がない」という回答の中にも、人によってさまざまな背景（家庭的背景、教育的背景、選挙制度の問題など）があるはず。その1つ1つを研究で深めていかなければならないのに、このアンケートでは内容が浅すぎて有効な回答が得にくい。

アンケートを校内で実施したい場合は、作成後、Word データをそれぞれの講座の teams の「ファイル」にアップすること。さらに、アンケート対象者を担当の先生に伝える。「1年生」「全校生徒」「教員」「全校生徒および教員」。外部に依頼したい場合は担当の先生に相談する。

⑤役割分担について

みんなが実験で調べているものを社会的に導入しようとする

例) ア. コストはどのくらいのものになるか、イ. 障害となる法律はあるか、ウ. 倫理的な問題はないか、エ. 似たような前例はないか

などを分担して調べてみる。これらは中間発表（または本番）で質問があってもおかしくない内容。

↓

調べた結果、コストの面でも手間の面でも既存の技術にかなわない…となっても、「でも私たちの技術を使えばこの層の人々を救うことができる」と主張できれば、それは価値のある研究。

↓

こういったことを考えるためにも本時はア～エ（自分たちで何か加えても可）について調べてみる。

※今後も、 $\alpha\beta$ に関わらず、役割分担しながら多面的かつ効率的に研究を進めていく。人数をちゃんと生かす！

※終わり次第、社会科学的アプローチの研究・調査にとりかかる。上のア～エをそのまま生かしたテーマに変更してもよい。役割分担しながら！